

X I -3 ウイルス性疾患

1) 麻疹

(1) 概要

原因	麻疹ウイルス																										
感染経路	空気感染・飛沫感染 感染力が非常に強い																										
潜伏期	9～12日																										
症状・臨床経過	<table border="1"> <thead> <tr> <th>9～12日間</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>潜伏期間</td> <td colspan="3">カタル期</td> <td colspan="4">発疹期</td> <td colspan="5">回復期</td> </tr> </tbody> </table> <p>The graph illustrates the clinical course of measles over 12 days. The y-axis represents body temperature in degrees Celsius (37 to 40). A red line shows a fever starting around day 1, peaking at approximately 39.5°C on day 5, and subsiding by day 7. Below the temperature graph, four shaded areas represent the duration of symptoms: '発疹 / 色素沈着' (rash/pigmentation) peaks around day 5; 'コプリック斑' (Koplik spots) peaks around day 4; '結膜充血' (conjunctival injection) peaks around day 4; and '咳、鼻汁' (cough/sneezing) peaks around day 4. A horizontal arrow labeled 'ウイルス排泄 (感染) 期間' (viral excretion/infection period) spans from day 1 to day 7, with a '2日間 発症' (2-day onset) period indicated at the beginning.</p>	9～12日間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	潜伏期間	カタル期			発疹期				回復期				
9～12日間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12															
潜伏期間	カタル期			発疹期				回復期																			
診断	カタル症状、発熱、Koplik 斑 皮疹（耳後部・顔面→体幹・四肢に拡大。小紅斑→癒合→色素沈着） 血清抗麻疹 IgM 抗体、PCR 検査（咽頭粘液）																										
治療	対症療法																										
感染期間	発症 2 日前（皮疹出現 5 日前）から皮疹出現後 4 日間																										
学校保健法	麻疹出席停止期間は解熱後 3 日経過するまで																										

(2) 院内感染対策

① 空気感染予防策を行う。

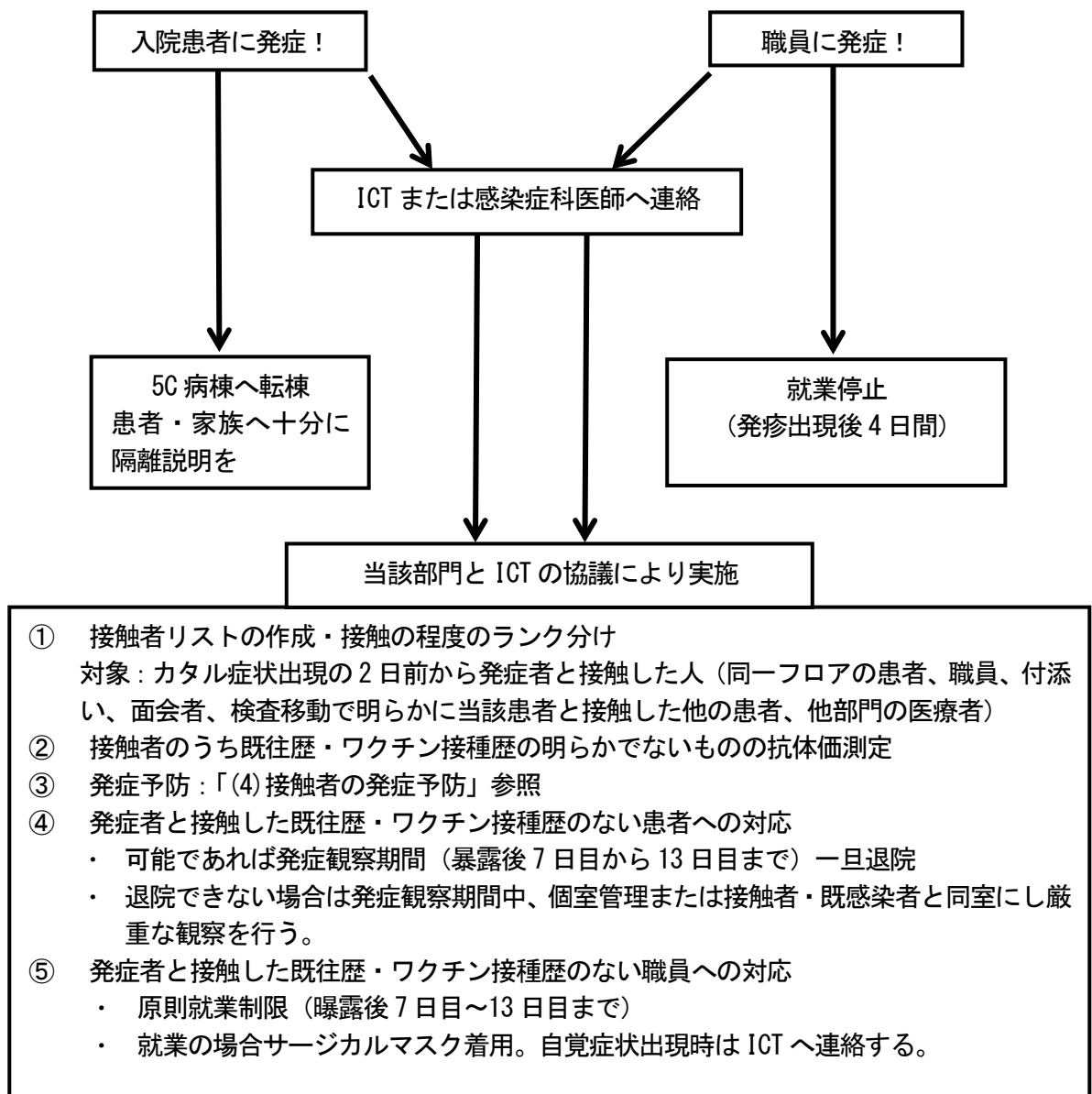
- ・ 陰圧個室管理による隔離を行う。ただし、陰圧個室の確保が困難な場合は、個室対応でもやむをえない。
- ・ 入室時 N95 マスクを着用するが、免疫獲得が明らかな職員はサージカルマスクでよい。
- ・ 病室のドアは常時閉めておく。
- ・ 体温計、血圧計、聴診器等の備品は専用とする。

② 患者の室外への移動は厳しく制限する。やむを得ず病室より出る場合はサージカルマスクを着用する。

③ 麻疹患者同士は同じ病室で良い。

④ 免疫を有する職員が優先的に対応する。

(3) 入院患者・職員に発症した場合



(4) 接触者の発症予防

既往歴がなく抗体陰性の接触者に対し、以下の予防投与を行う。

- ① 接触後 72 時間以内→ワクチン
 - ② 接触後 6 日以内→免疫グロブリン投与
- ※ 妊婦と免疫低下患者にワクチンは禁忌

(5) 小児の接触患者への対応

感染既往のある母体の移行抗体が残っている 5 ヶ月未満の患者は無処置でよい。